明倫歌集　一

番外書冊

和歌雑詠

和書門 類　二五五四四 號　六八 函　七 架　五 冊

96
内閣文庫
和書 類　二五五四四 號　五 冊　二〇一 函　七 架

内閣文庫		
番號	和	25544
冊數	5（ 1 ）	
函號	201	96

201-96

Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak

国立公文書館
National Archives of Japan

竹柏歌集

明倫歌集序

教訓の文なりし古記に天津日嗣
皇子尊の大御世を安らけく知ろしめす
神の代々の御代々に万の言の葉の大きなる
命ある世の人を教へ導く道の須らく徳を為す
正しき古の心を以て深く伝へ来たり
鏡の清き心を守りて神国の神

淺草文庫

修史館記

にゝ以者起数一の定ま川利て、古方至よ不、雅
なでん免能ば萬象別、雅羅志隣ん於でら比
雅述数ゝ、火八淵能國、流な免らの所。
お化数波留之一の隧、士也志でら津伏て定
五音ゝ、古てゝ二流ば不せし　十也二音ハ
也でに付字之お移、士也の定文多に
人父、五能数も流語て、二九神なふでら免

能中にゝ古也羅能ば定　雅去利字、古でら去ぬ
可なんをた人雅辞の計当、士志知也流者ゝ。
父母もなふ也他、面子学孝ゝぬゝ也
よ利去目也て、和可九体又妻也ゝ当の気、
定め大流壬数人勢を握衆て、保可の月男波
雅之発伊不心字、ゝ移物理娜能等ゝ字
多比能比、おゝ種し字孝可不留也能八山

由の麻牟都寸屁。海由一の麻水都乃一可末称。
大玉乃安古止能末呂古可の麻多者之
支乃也比伊不こと呂の。翁の乃為大伴氏能遠者
於物云。云たて世て那都人能共能左加
字義那こら為の。幾ためこに伊比都義
比良都一の連漢名は今て左為さて定
呂能乃毛計波國と隈乞て多那久左也

末き利乃氏辭能世又人こと呂可宇亭と
宇登奈九於古那比左為西ての多し
加漢神奈に比乃と心に那加人の都九
良乃毛未奴為のと又都高也比利古利之て
世可勝奈都計川心乃末こ比世と比に
左して宇為比能可左毛と又ここと王
那都於於保波都巾の一の幾奈比琴能

古歌ともを侍て、老しぬる久しく侍也とまうす
老え路此今当、和歌集の侍ける侍、仰によりて君
心は拾遺の一首あるに義は花有に保こる
以伝者当像、歌者後撰伝す。万葉集と歌集連当
彼守也、御人歌数出来連歌、平兒紀之并
者討ておほえ久思召にくらべまします也
女安島の歌とも象連慶人の御事をこそ書載せて。

浅人歌の当世なるか、大伴家持のおもむき有。数為
集を経て加へ侍る老の歌を撰み作、伊勢の侍也歌
字存為子撰也歌。口伝もて侍りけれ。歌を申め
て、古今集手向歌、此一の文也。乃不染有也。在も
世来行し丸字、作言に在男やら歌在を古今当に。
聖徳連乃事也又向也、国生今当、古今之
今にて此紀、貫之にも世にも大臣の浅からぬ交蒙りに

末呂須乃首道毛能三宜乃一乃九以来之波数
詞止毛乃老也以宇奴男八婦女其無之以跡
於保乃可遠淡乃今女由乃支乃布加左那乃別之
大乃其乃歌八安宇乃女乃以末和此巻支十此宣之
安之女奴遠淡乃毛乃名一見之家乃人乃其乃
明乃以古以女那乃乃語以乃士心乃支何遠古女
藻乃字一見毛流乃乃以其支不見乃和古言

遠授乃仔支又以末支乃女十乃加乃連波比路
不于数波奴男左乃乃比自乃乃経女謂乃乃流毛
於保乃女遠揚乃流女支文老乃訓乃女物之
流之安此経此那世以毛呂末和乃人乃心
乃乃之其乃也乃葉末女雄之乃加乃那
可也保代支理女加宣乃比以乃大佐國
礼美乃乃一乃和末乃訓以四方乃海乃外

未傳也て理一の形如加漢、故御國八字を
事にも如何なる事、其記彼乃伊呂波者備耳
古乃説字たる人おほ深の其舞無く八ム能無之
能跡ありに者学受後乃世に至る侍
而も稀て伊九呂を出安者是に由して加漢
者見聞記書留也、外國人にも和称
神國能道をも生年なし使て出安事れ

字事し、其加何に舞無八、於説乃遠成形稀に
思ふに安事漢何利て、以可漢加和了其事
記せ乃名と也、然法律几て加るに増
安に出、可九以名此季能名子与係由侍
字加て其伊呂波為めて、四の通和に安を
述為能伊呂波御世形成内以其深之
形の漢文其利記成し記、筆能其以呈ち事

彩筆波瀾硯可萬[?]儀之家[?]毛君[?]
尖[?]筆走萬數之古詩妙詠[?]

權中納言源朝臣[?]

明倫歌集目次

巻之一
君臣
巻之二
父子
巻之三
夫婦
巻之四

兄弟
朋友
巻之五
雑部
神祇
國體
文武
拾遺

明倫歌集第一

君臣歌

後柏原天皇御製

御着倒和詩
をさめしる國の世のため浪風のしつけきはくゆくすゑそ見れ

聖廟法樂和歌
いのるには月日もおなし心にてまもらせ世をてらしたまへ

光嚴天皇御製

風雅集
てらしみよことしきをあはさい時として民の心のやすくなれかし

後醍醐天皇御製

続後拾遺集
世をさまるむ道やのれいのこゝろにつきぬ思ひなるらん

後宇多天皇御製

新千載集
川しあきはいつよりうらひかさねて世をなかく聞人やいかにや

後村上天皇御製

新葉集
はるの西きし人世のあらまし山渚松のときいく秋西川行らむ

後奈良天皇御製

続撰吟集
くもりなき光ハ日輪をみつの垣のうけてたえせぬ道ハかはらず

亀山天皇御製

新後撰集
ちはやぶる神のみちをそうけつぐいやさかゆまよ千代のあと

後村上天皇御製

新葉集
こと法をかりそめなく桂の影のみむかしのまゝに雲井ならまし
幌
掲

二條天皇御製

玉葉集
なかりし人のみぞまたいにしへをしのぶの名ばかりそれとは

後宇多天皇御製

続千載集
いくまでも我やどの花のみならず霞たつ川きしの初花

後醍醐天皇御製

新千載集
あふみのやさかたのいねをかけつみて道ある御代のはしめにそつく

續千載集
いろくれる秋のきぬたの音すみてねさめの人のなかき月

後鳥羽天皇御製

續後撰集
おくやまのいはやのとこのさゆるよはやまの風そふきしほりける

後光嚴天皇御製

新拾遺集
しきしまのやまとことはのみちにこそむかしにかへる秋のことのは

後村上天皇御製

新葉集
をさまれるよのためとてはくやしくも暁の寝覚をせしもおもはし

伏見天皇御製

新拾遺集
神やしる世のためとてそ身をもおもひなやむこゝろとはしらすや

崇光天皇御製

新千載集
鈴鹿川八十瀬の浪のたちかへりよのまつりことすへらきのうへ

伏見天皇御製

玉葉集
いかにしてをさむるよそとおもひつゝあさゆふ人のたみをこそおもへ

新千載集
世をまもるひかりをそへてをさまれるたみの心とあふく北斗

等閑

光嚴天皇御製

新後拾遺集
とまにのひまなきことをしてそくやきえかはゝそて民をまもるひとつなし

風雅集
わるゝわるこゝろハ岩清水にこりぬあとをたゝせ給ひて

後醍醐天皇御製

新葉集
身にかへておもふとたにもしらせはや民のこゝろのをさめかたさを

後嵯峨天皇御製

續後拾遺集
たのむかな人にまさると思ふの和世をおさめ身のこころはしハ

後鳥羽天皇御製

續後撰集
ひともをし人もうらめしあちきなく世をおもふゆゑに物おもふ身ハ

後醍醐天皇御製

增鏡
たゝきことはあれいさむ吾民とをさむへきはかた様

後光嚴天皇御製

新千載集
なほさかりにおもふあらそひのことわりをもさは民を思ふやりてこそ

後醍醐天皇御製

風雅集
をさまれるあとをそたつねおもかけてたつねしとハおもひやりつゝ

後嵯峨天皇御製

玉葉集
民の代のゝとしの朱のちまてもいつくいさよふとも

花園天皇御製

風雅集
かしこきやみちの國のかぜをうけてきくこゝのはなをさはりかへりみる

後鳥羽天皇御製

新古今集
奥山のおとろか下も踏わけて道ある世そと人にしらせむ

棘

後宇多天皇御製

續千載集
治秋のこゝろならひてみつるかなそむきつゝきのおもふしたなし

孝謙天皇御製

萬葉集
四つの船はやかへりこと しらかつけ我裳のすそにいはひてまたむ

鎮

桓武天皇御製

同
此酒はおほよにはあらすたひらかにふたゝひきませといはひたるさけ

九

後村上天皇御製

新葉集
位山たかくもしける木のもとに星神のめくみそふる世なりけれ

後光嚴天皇御製

新拾遺集
世をさまらん民をいつくしむとあふくには日嗣の末はかなし

龜山天皇御製

續拾遺集
岩清水たえぬなかれはふかけつる代の末まて神もまもらむ

伏見天皇御製

玉葉集

代ゝたえすつきて久しくさかゆへきわか日の本の國やすくして

後村上天皇御製

新葉集

四方の海なみをさまりてしつかなる時にあふこそよろこひて傳ふなれ

二品法親王深勝

同

世をやすく國をさまれといのるかな人のひとつ心をすまぬ(?)めくみ

一條内大臣 内實

續千載集

民やすくおもふこゝろはしるへなる代々をまもりて天つ日つきせぬ流のいのちね

二品法親王慈道

新千載集

あふき見てなほそたのまむ代々のみちふるき文にもためしひかりしさ六

賀茂惟久

風雅集

行すゑの風に岩根の松かえもかはらぬみとりしけきよをまもるこの松

一宮紀伊

後拾遺集

萬代を松の尾山のかけしけみ君をそいのるときはかきはに

入道前太政大臣女

内裏九十番歌合

春日山峯の松の枝かはらぬをはるかに千代のすゑのよはひのはるかそ

津守國平

續後撰集
我たのむ松のちとせをゆつるかな代々につもりの神みやつこ
津守國夏

新千載集
おさまれる神はこれ代の為なれハ天と神とよるは住吉の海て
津守國清

内裏九十番歌合
住吉の神につかふる身にしあれハ天か下なるいのる君か代そしる
賀茂在藤朝臣

玉葉集
なも人の為七歳のなかれみちをもていく百代にかのつたへぬる
賀茂經久

續現存六帖
神代のみ孫まもらむはつきせぬ八千代まて君の為といのりそめ
藤原季經朝臣

千載集
諸神ちからをそへよ誓ひの影かとも君か八千代といのるまことハ
祝部成氏

新拾遺集
神垣よ万代をまもれと祈ること天つのふるまことなかれ
從三位常昌

同
君の代をいのるこゝろのまことをハはもかなり神ハうくらむ

伊勢

家集
いすゝ山ゆきゝのふ人ハ君の代をいはふ川ところよ祈やまち奴

賀茂氏久

續古今集
天か下のため一言の神のミやあきらかなる祈ハしらせん

前大僧正慈圓

新古今集
我こゝろ祈る心おもいろと人ともたゝものゝふのあはれ満

逍遙院内大臣實隆

雪玉集
君か代をあふく心を祈かなひまもる月のかけとかくるゝ

賀茂重保

雲玉抄
君をいの祈をまことよそへたまへ千年いのちの神ちかふらん祢

津守國貴

新葉集
君をいのる心のふかきハ神垣をやいつくゐるも常なれ

從二位隆基

同
おもひつゝ君にいのるハ神垣のゆかりところかはやまのつよらし

權大納言實雄

續後撰集
神垣やみむろの榊ゆふ（木綿）かけて祈るは千代も只君のためなれ

續後拾遺集 權中納言公雄
本縁のはしに代々さしける榊葉をいつ十氏人のおもひしらるる

春葉集 荷田東麻呂
跡たれし月ハ若山の榊葉にかけさやけくも照らすかな

新古今集 俊恵法師
神風や玉くしの葉をとりかさし内外の宮に君をこそ祈れ
賢木葉 内外

鶴の家草 参議源治紀
我君の千代に千代の末の末まてもいのるおもし伊勢の神垣

月清集 後京極攝政前太政大臣 良経
民も皆君ありしよに清くして山家さへくもらぬ月の百年をそふ

古今集 讀人不知
筑波嶺のこのもかのもに影はあれと君かみかけにますかけはなし
此面 彼面

風雅集 芬陀利花院前関白内大臣 内経
沈むへきをさへ恵むさかへ川のふかきめくみにれの瀬をなからせし

新續古今集 後福光園院攝政前太政大臣 良基
おろかなる身にしてもなほ世をすくふ人にこそ神の惠みをも

風雅集

天下民のはそれも日乃ひかりやふ藪しわかぬめくみならすハ

大江宗秀

新続古今集

もろこしも秋津嶋ねもあまてらす神の道にそ廣き心のめくみをそしる

權大納言為遠

萬葉集

武士のおみの男ハ大君のまけ任のまに随まにきくといふものそ

讀人不知

同

けふよりハかへりミなくて大君のしこ醜のミたて御楯といてたつ我ハ

今奉部與曽布

同

天地の神をいのりてさつや幸矢ぬき貫つくしのしまをさしていく我ハ

太田部荒耳

同

大君のみことかしこみ磯にふり觸うなはら海原わたる父母をおきて

丈部造人麿

同

大君のみことにされ在ハ父母をいはひへ斎瓮とおきてまゐて参出きにしを

雀部廣嶋

同

大君のミことかしこミあをくものたなひく山をこよてきぬかん哉

小長谷部笠麿

鎌倉右大臣 實朝

新勅撰集

山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心わかあらめやも
（裂）（涸）

中務卿宗良親王

新葉集

君のためよのため何か惜からん捨てかひある命なりせは

中務卿宗尊親王

瓊玉集

あ理てよの人にまさるむかしのこゝろのあとを思ひしれとハ

文貞公 師賢

新葉集

思ひへつゝ今ハ世を捨てゝまかるとも君かためにはたゝこのこゝめ

鏡月房

承久記

勅なれハ身をハよせてき武士の八十氏川の瀬にハたゝねと

揖取魚彦

家集

いよさらに国思ふ心やつかへまつるこゝろにせるかねあるものや
（奉）

境部宿祢老麿

萬葉集

たゝなめていつミの川のみをたえすつかへまつらん大宮所
（楯並）（水脈）

大納言巨勢朝臣 奈良麿

同

天地とあひさかえむと大宮をつかへまつれハたふとくうれしき
（相栄）（貴）

古今集
みの國関の藤川たえすして君につかへむ萬代まてに
読人不知

家集補
君か世は水やすめくる岩ほになかれくる萬代つくせ川よ
大中臣能宣

拾遺愚草
神もみよかもの川波ゆきかへり清きふる道まもりけむ心を
権中納言定家

新千載集
津ゝきてひとつ流の跡をねかはくはたえしとそ思ふこゝろなる哉
前中納言宣明

同
ちはやふる神代の君かたえすしてひとしくもつたへくるまてそまもる
後光明照院前関白左大臣 道平

内裏九十六番哥合
君のみちふるこんなきこゝろをそてつのふるえにふる六十つみけむ
左大臣 公賢

新千載集
かしつく清き水の光の坂さかし記道をうけてつたふる
賢
大納言経顕

続拾遺集
すゑとほく跡ひさしかれ君か代は文つたふ家の跡とは
兵部卿隆親

六條内大臣　有房

新拾遺集
老らくの白髪まてに仕へこしまてけふのみゆきにあふの嬉しさ

前大納言光有

新葉集
思ひきや三代につかへて吉野山雲ゐの花に猶なれんとは

文貞公　師賢

同
清ふさくらん鶴とけし九重のやとの庭の雪の内の

左大臣橘諸兄　諸兄

萬葉集
ふる雪の白髪まてに大君につかへまつれはたふとくもあるか

権中納言定家

拾遺愚艸
霜ゆきのしらかまてに仕へきぬ君か五代をいきてひおくるて

土御門内大臣　通親

新古今集
和かゐふ河のみなかみとをく流れてはふるそこのこゝろしる紀

中園入道前太政大臣　公賢

新拾遺集
五代まて仕へつゝかはらぬときは松のこゝろはあふきみぬは

前大納言忠光　徹

五百番歌合
今ゝはやおいそのもりのしたくさのみそちあまりつゝ住の江のまた

續拾遺集
津のくにの難波にいそのぬしやこの千代の浜子もみちてさく
前大納言良教

同
ゑるゝよしそ嘆ことふかれゐる見よつたふるみちにそくとて
前大納言為氏

天明五年歌合
もろおもしいきき清みかるたるの左右よの教そぬる
左大臣 政顕

新續古今集
世をしのふるみちにあそはゝのこゝろえつたふる教とあるへき
祝部成家

續後拾遺集
言きくも見よつたふる教なれはわかにしきめて世をはをさめし
從三位為信

風雅集
松かねにおさまる世々のあとしるきのきとふみの道くせはこや
藤原時藤

新葉集
命あれはこゝろにとたけ古まことのやまとうたもまことつたへける
前大納言光任

玉葉集
たえぬ事も千代やちよの末までもあかすかきりはつへてしいの松
山階入道前左大臣 實雄

従二位行家

新千載集
いはのまの葛城山のつらくるやときはにつたへてまつらまし

蔓　久

源晴信

百首和哥
いく幾山の賀茂の社のゆふたすきかけて幾世を祈りつゝ

木綿襷

右大臣賢房

近代著到御百首
流れの末をくみて千代まても絶えぬなかれを守る語人

冬嶺源治紀

鶴山詠草
棹さすやしかれおのれおもふて敷島の代のためあふくへし

大伴宿祢家持

萬葉集
天地にたらはし照りて我大王しきませはかもたのしき小里

敷座　楽

海犬養宿祢岡麻呂

同
みたみわれいけるしるしあり天地の栄ゆる時にあへらくおもへは

源俊頼朝臣

續後拾遺集
千葉にも廣代はへてしまつみつや日本のわれの動きしたる稲八

春日王

萬葉集
大きみは千とせにまさむ白雲もみふねの山にたゆる日あらめや

大伴宿禰家持

萬葉集
大王ハときはにまさむ橘のとのゝたちはなひてりにして

皇太后宮大夫俊成

千載集
百千度浦嶋の子ハかへるとも藐姑射(はこや)の山ハときはなるへし

平宣長

玉鉾百首
物皆ハかはりゆけとも現(あき)つ神わか大王のみよハ常(とこ)しへ

権中納言定家

拾遺愚草
麻路のや[illegible]はるかも常盤なる天つ[illegible]のえハ神のまにまに

西行法師

山家集
大海のしほひて山になるまてに君ハかはらぬ君にましませ

前中納言為相

續千載集
[illegible]のまもれハ[illegible]千世萬代[illegible]へし

素性法師

古今集
いにしへにありきあらすはしらねとも千とせのためし君にはしめむ

従二位家隆

壬二集
[illegible]やまにて[illegible]代の[illegible]せぬためし[illegible]

三光院内大臣 實枝

心珠詠艸
あまてる日のかゝらぬ新やまた代のはしらをつねにためしもまつらん

前位隆實

詠百首
いく千代もおなし月日のめくりきてかはらぬ法代はかきりしらすも

藤原為忠

金葉集
よろつ代をきつのみつかきつきせぬ天つ代かけて神やまもらむ

參議源治紀

鶴山詠艸
にほてるや波のますこの神垣にてらさるゝなる法代やらん

前大納言臣房

新續古今集
八百萬〈許多〉そこら神の末たえぬよろつ代ひろくまもるくにそよ

前中納言實任

同
くもりなき光の日影のあまねくて昔に二たひみよの光は

源家長

五百番歌合
神代より絶ぬためしの日嗣まてけふもかはらぬ光なるらん

中原師光

續後撰集
いにしへの跡をあまねく國につたへてつかへきつゝの神そまもらむ

左京大夫長親

五百番歌合
神の代の三種のたから傳へきてまもりの名そ正しき

中務卿宗良親王

詠百首
君の代ハ松の末まてかはらしなこのあまてらすめくみ神のまに

伊勢大輔

夫木抄
いにしへのまつの付ためてきみか千世へんとちきりおきてハ

読人不知

詞花集
きみか代のひさしかるへきためしにや神もうゑけん住よしの松

源兼澄

家集
住吉のきしのたちみる松ハ幾よへぬらんふりつもるらむ

後京極摂政前太政大臣良経

月清集
そのかみのたえせぬ代の跡まての松にちきるもむかしなりけれ

大蔵卿為長

続古今集
けふよりハちとせの松の葉をかさねそへておくなるすゑハ万代

嘉陽門院越前

夫木抄
神垣やいのりてうへし住よしの松のとよみの新

正家朝臣

高陽院七番歌合
君か代はかねてそ見ゆる春日山二葉の松の神さふるまて

贈大納言時信

万代集
君か代は天てらす神の光そと遠ハ百よろつたひあふくなりけり

三位源頼政

今撰和哥集
君のよは鶴の庭なるさゝれいしのかくみるいはと成りにける哉

鶴居

読人不知

古今集
わか君は千代に八千代にさゝれいしのいはほとなりて苔のむすまて

巌

拾遺集
君か代は天の羽衣まれにきてなつともつきぬいはほならなむ

撫

衣笠内大臣 家良

夫木抄
大宮川のみなかみのすミてよとゝもに君か代はちとせへし

春葉集
いつゝきやその世にならふ君の八百万代乃ためしかそへす

荷田東麻呂

康資王母

新続古今集
我君はさゝれ石よろつ代かさねてもけふ歌にあかぬ秋

大蔵卿有家

夫木抄

ひさしかれまもる神の國の内にまつりおほせたまふ天つ日つぎの代々

後京極攝政前太政大臣　良経

月清集

くし神の霊をいはふつかさのまへに移して千代の色ハかはらし

前中納言雅家

新續古今集

乞のしるしなる世をまもるけふそのめくみやあまねくみちぬらん

刑部卿範兼

新古今集

る人の代をまもる神と誰かいはん是ハ神代に生るゝこの身

參河内侍

同

みにのこる花はしるしまもる代々の我身の限あらんかきり

入道前太政大臣　公經

續古今集

いさゝかのこゝろを今日に櫻花ちるまじき代の春にしる

總今右大臣　實朝

玉葉集

わかの道萬の代にかはらしな月とともに久しきあるへき

權大納言忠光

新後拾遺集

限なく世をまもるてふ大神のひかりやこのみちに生れん

後花山院入道右大臣　定雅

玉葉集
諸ともにえてもちはやふるのあまてる月代乃秋
前大納言基良

續千載集
風かよふ民のくさきもなびくらし四方の秋津千代の始て
権中納言政顕

三十六番歌合
道ありて人をしる世の治まりてえらびはものゝためしなし
近衛左大臣　信輔

天正記
えにしあるこゝろあはせてさかゆく世の千年契る庭の松風
素性法師

古今集
如くはひさしかるべし万代にかねて植ゑけん松のみどりを
読人不知

萬葉集
あめつちとひさしきまでによろづ代に仕へまつらんくろきしろきを

同
しめゆひてわがさだめてしすみのえのはまのこまつはのちもわがまつ
侍
召
資人金明軍

同
はしきやしさかえし君のいましせばきのふもけふもわをめさましを

同
みなそこのおきつしらなみたつた山いつかこえなむいもがあたりみて
柿本朝臣人麿

萬葉集
久方のあめみることくあふきみしみこ（皇子）のみかとのあれまくをしも

高倉天皇升遐記
いつまても雲ゐきえしけふの跡はきえて大空にやえそふらん
土御門内大臣　通親

後撰集
人の世の思ひにかなふ物ならはわか身ハ君におくれましやハ
三條右大臣　定方

同
はかなくて世にふるよりハ山科のみやの草木とならましものを
藤原長能

千載集
花散くれぬるのあまつ君くしてそらふるさひしられぬるかな

新葉集
いかにせん涙にたえて住まさぬ袖をしほりしそのゆくへこそ
関白左大臣　経忠

千載集
尚ふかし其のみゆきをはけふをかへしらぬそのなこりしき
法印澄憲

続古今集
いし
おくれゐてくるしひやるも悲しきにたちのほるけふの夕けふりハ
皇太后宮大夫俊成

宮川哥合
道のへのみゆきをかへし袖やひらけむおもひやられむ
西行法師

後拾遺集
おくれしと岩のみゆきはいつもかけふそえてぬ松の始なりけり
大納言経信

大鏡
あなたかしこ夜なかの雪のうへにけさかきわけてふみならしつゝ
常陸国農民

玉葉集
みつしほのなかれてとたえぬ海原の波にかくれて照る月
西行法師

続世継物語
思ひやれ君の御法をきゝにしも涙にくもる袖のゆかりを
蔵人実重

新葉集
思ひやる山路の雪にふみまよひなかめつゝそ見し
前大納言光任

新古今集
あはれてしよるかたもなき秋の心うき世にて思ひ乱れて
権中納言国信

古今集
水の面にしつく花の色さやかにも君かみかけのおもほゆるかな
小野篁朝臣

同
皆人は花の衣になりぬなりこけの袂よかわきたにせよ
僧正遍照

文屋康秀

古今集
草ふかき霞の谷にかげかくしてる日のくれしけふにやはあらぬ

命婦乳母

後拾遺集
あらくかくをかくるらむうくはなをしらぬ月をみるよ

皇太后宮大夫俊成

新千載集
雲れどもかげはかはらでゆめなるみしよにかはる秋の月かな

前大納言為兼

玉葉集
二上の峰のあかれは深きやまぢのかすみきえぬまに

新宰相

続千載集
しられてもかゝる秋こそ照月れ深き夜ふけの秋の月

同贈答歌

左大臣橘宿禰 諸兄

萬葉集
堀江にハ玉志かましを大きみのみ船こかむとかねて志りせハ

元正天皇御製

同
たましかす君かくいていふ堀江にハ玉しきみてゝつきてかよはむ

聖武天皇御製

同
よるのこみくハあやしとけはされハまよやされ出ておそくかへるの色

左大臣橘諸兄 諸兄

萬葉集
むくらはふいやしきやとも大君のまさむとしらは玉しかましを

中将伊衡

大鏡
一とせにこよひかそふるいまよりはもゝとせまての月かけをみむ

醍醐天皇御製

同
いはひつることたまならは百年ののちもつきせぬ月をこそみん

後村上天皇御製

新葉集
袖ふれし梅のした枝をのこしてはなちてあやめのきさきをめそて

同
なき人のためにむけのあやめくさひきためしのこゝろをそふる

妙光寺内大臣 家賢

新古今集
かゝるせもありけるものを宇治川のたえぬはかりも歎きけるかな

東三條入道関白太政大臣 兼家

圓融天皇御製

同
むつことのつきをあはれのまかれはとおもはむはるさとは御覧む

前大納言為氏

新後撰集
和かの浦にひかりみゆる松の鶴みてそのこゝめ思ふねそなかるれ

崇光天皇御製

新後撰集

よもの浦に千鳥思ふそて鳴つるの群にやきゝつゝ夜ふかき

孝謙天皇御製

萬葉集

大舟にまかぢしゞぬきこのあこをからくにへやるいはへ神たち

真楫　繁　貫　吾子　鎮

同

かすか野にいつく三室の梅花さかえてありまてかへりくるまて

藤原清河

同

長月のそのはつかりの使にもおもふこゝろはきこえこぬかも

遠江守櫻井王

聖武天皇御製

同

おほの浦のその長濱によする波ゆたけくきみをおもふこのころ

後村上天皇御製

新葉集

世のためもこゝろくるしきは思ふそいとゝ庭のあはれそひける

同

たつきなくひあきこそはうきそと思ふこそなほまもしの人とまくそ悲しき

右近大将長親

後村上天皇御製

同

今さらに言ふもえてたつれとせまてあやめきこえてもうし悲しさ

新葉集
あやめくさこゝろしられてふる軒にふきそへてけさのねやの流るゝ
前大納言實為

古今集
ことしけしをはくたつ事の思ひはおもひしものをやすくてこひしからん
在原業平朝臣

新古今集
まつにいけるおもひを浮世にへてすまつものこゝろに猶たえやしなむ
順徳院親王

前大納言為定

新葉集
思へたゝむかしをまつ猶ねくはなかなる枝のなかしなさけを

同
はなちらし枝にあらぬとおもひ出てみさためしなかやなかそかね
中務卿宗良親王

昌平坂

国立公文書館
National Archives of Japan